2024 年度自己点検・評価について（報告）

自己点検・評価委員長

2024 年度自己点検・評価は、①2021 年度受審の認証評価（以下、「第 3 期認証評価」と記す）において是正勧告・改善課題が該当する学科・部署は該当する点検・評価項目、②①の指摘を受けなかった部署は、第 4 期認証評価の評価項目・評価の視点をそれぞれ用いて、自己点検・評価を実施した。以下、その結果を記す。

1．第 3 期認証評価における是正勧告・改善課題

（1）教育課程・学習成果

教育課程・学習成果については、2 点の改善課題を受けている。

1 点目の教育課程の編成・実施方針に教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないという指摘に対しては、2021 年度に対応し、2022 年度の教育課程の編成・実施方針に示している。

2 点目は、各学科の卒業認定・学位授与方針（以下、DP と記す）に示した学習成果と学習成果を測る指標との関連が明確ではないとの指摘である。

2021 年度に各学科 DP のうち、少なくとも 1 項目に示された学習成果を測る指標を検討し、2022 年度にその指標を用いて学習成果の測定を試み、指標の改善を図った。そして、2023 年度も各学科が学習成果の測定を試みたが、測定結果及び分析を出すまでには至らなかった。すなわち、指標を用いた測定を行ってはいるが、DP に示された学習成果の捉え方、それらを測定する指標の設定に確信が持てず、指標の検討や改善に留まり測定や分析まで進めていない状況であった。

本学は 2025 年度から 2028 年度にかけて段階的に共学化するに伴い、3 ポリシーを見直す。2024 年度は、全学科ともに DP に基づく学習成果の設定と測定に取り組み、成績評価等の直接評価と、アンケート等による間接評価による学習成果測定の実施または試行を行い、2025 年度以降に精度の高い学習成果測定と教育内容へのフィードバックを目指した検証と検討を行っている。また、この結果をもって、2025 年度 DP の再検証にもつなげていく。

学習成果の測定の施行段階にあるのは、総合健康学科とビジネス学科である。

総合健康学科は、養護教諭を目指すコースと、健康と運動の知識と指導法、活用を目指すコースに分かれている。アンケートによる間接評価と就職率で学習成果の到達を測定したが、両コースのベースとなる科目の成績評価（直接評価）が必要と考え、その指標設定の検討を行っているところである。次年度以降は今年度の検討を活かしてさらに精度の高い学習成果測定が望まれる。

ビジネス学科は、学習成果と DP に示す卒業認定基準との整合性、学習成果の測定の意味を根本的に見直し、その結果を含めて学科内で周知し共有することを課題とし

ている。2024 年度は、必修 7 科目と主要な基礎科目のうちの 3 科目の成績評価の平均値及び標準偏差を測定指標とした。また、学科が設定した学習成果測定の指標と、その基準となる科目の設定については有意性を確認している。次年度は、学生自身による学習到達度チェックを行うことを合わせて、教育改善につなげることが求められる。

測定指標の改善を進めながら学習成果の測定を行っているのは、人間看護学科、食物栄養学科、児童教育学科である。

人間看護学科は 2024 年度からアンケートに加えて、成績評価を基にした学習成果の到達度測定を併用することにした。DP1～4 に基づく学習成果の測定について、「からだ」「こころ」「社会」の 3 側面から人間を見る能力、生命に対する倫理観、看護・保健・医療・福祉に関する知識の習得が獲得されている状況を確認している。次年度以降は、個々の学生を見た時の成績のばらつきについては、成績評価の基準を設定してその原因を明確にすること、看護師に求められる力としてコンピテンシーに注目し評価の精度を上げることを目指している。

食物栄養学科は、教室活動によって獲得された知識を実践的に活かしているかを測定するため、「給食経営管理臨地実習」「公衆栄養学臨地実習」において測定の指標となるルーブリックを作成し、教育者側の実習評価、実習生の自己評価、実習先の評価の 3 点から学習成果の測定を行っている。また学生による自己の学習到達度を測るアンケート、学科教育へのアンケートを実施して、学科の教育課題を明確にし、改善に活かしている。また本学科に特有の管理栄養士試験の指導のため、対策講座に対してもアンケートを実施し、測定結果は学生の教育・指導に活用されている。

児童教育学科は、DP に基づく学習成果の測定を、アンケートによる評価を行っている。また学科会議を通じて、結果を共有し学生への指導に活かしている。ただし、アンケート結果の分析によって、学生自身の学習到達度認識の確認を行うことはできているが、成績評価に基づく直接評価による学習到達度の測定に課題を残している。学科ではこの点を鑑み、次年度の学習成果測定については学習成果測定の基準や指標の作成を検討し、実施する方向である。

以上のように、大学全体としての評価指標作成の提言もあるが、まずは学科での測定が必要である。

（2）教育研究等環境

第 3 期認証評価では、一部の校舎では建替計画を策定し取り組んでいるものの、最も収容人数が大きい 1 号館の耐震工事の実施計画が未定であるため、改善するよう指摘を受けている。学生の安全性確保が最優先であるため、法人本部と協議し、補強工事の調査等を進めていく予定である。

（3）大学運営・財務

第 3 期認証評価では、大学運営・財務について是正勧告を受けている。2019 年度から 2024 年度までの資金収支及び事業活動収支シミュレーションを策定しているが、「当該シミュレーションは、具体的な事業内容とその資金計画が可視化できていない等、財政計画として十分であるとはいえないことから、今後は改善に向けて、より具体的な財政計画の策定が求められる」との指摘を受けている。本学では、2021 年度に「学校法人園田学園経営改善計画」を策定し、計画どおり実行している。経営改善計画に盛り込んでいる 2028 年度までの入学者数・在籍者数シミュレーション、教職員数シミュレーション及び収支シミュレーションは年度ごとに見直しを行いながら実行しているところである。

２．第 4 期認証評価の評価項目による自己点検・評価について

教員・教員組織、学生支援、教育研究等環境、社会連携・社会貢献に関わる事項の実施内容の点検・評価には、「点検・評価の結果を活用して、改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか」という評価の視点を用いた。各種委員会等にて点検・評価が行われているが、これから改善・向上に取り組んでいくというところが多い。第 3 期認証評価を経て、2021 年度から本学では各種委員会において、取り組み事項の検証結果を示し、議論するよう取り組んでいる。取り組み事項を検証するにはどのような資料を用いるのか、検証結果からどのように改善していくのかを試行錯誤している。今後、各種委員会での点検・評価内容を確認しながら、PDCA サイクルの定着を促進させていく。